

直方文学散歩・日記編
森鷗外の「小倉日記」その1

明治の文豪森鷗外、小倉へ赴任

森鷗外(本名・森林太郎 1862~1922)は1881年19歳!で現在の東京大学医学部を卒業しました。年齢確認のいい加減な時代とはいえ、空前絶後の若さです。

その後、陸軍省から派遣されドイツに留学し、帰国後は軍医のかたわら小説や評論を発表し注目されました。

日清戦争に従軍後、明治32年1899年6月に軍医監(少将相当)に昇進し、小倉(当時は小倉町で翌年市政施行)の陸軍第十二師団軍医部長として着任しましたが、これは左遷人事とされています。

その後、明治35年1902年3月に東京の第一師団軍医部長に栄転するまでの記録が「小倉日記」として後に出版され、現在岩波書店とちくま文庫の森鷗外全集に収録されていて古書店で入手可能です。

その中で、明治32年と33年の二回直方を訪問した際の出来事が詳述されていますので紹介します。

人力車乗車拒否事件に遭遇

森鷗外第十二師団軍医部長が初めて直方を訪れたのは、着任直後の明治32年7月9日でした。

博多から汽車(国有化前の九州鉄道)に乗り直方駅で下車。初代駅舎の時代なので、現在の三代目駅舎と御館橋の中間付近にありました。

軍医部長の重要職務であった鞍手郡福丸(現在は宮若市)での徴兵検査立会のため人力車を利用しようとしたが全員から拒否され、茶店の主人が連れて来た車夫も途中で職務放棄して止む無く徒歩で目的地へ向かいました。帰りは人力車で直方まで帰り、汽車で小倉へ戻りました。乗車拒否の理由は多額のチップをはずむ炭鉱主に比較して、そうではない軍人を敬遠したようです。

人力車乗車拒否事件の影響

この事件の背景に憤慨した森鷗外が福岡日日新聞(西日本新聞の前身)に「我をして九州の富人たらしめば」を寄稿したことが、同年9月16日の日記に書かれています。

この一文は心ある名士たちに大きな影響を及ぼし、後の九州帝国大学の誘致や明治専門学校(現在の九州工業大学)の設立に貢献しました。

人力車のまち直方

東京で人力車を発明した和泉要助は中泉の出身。石炭記念館に明治時代の人力車が展示され、直方文化連盟が製作してイベントで活躍中です。



直方市のイベントで活躍する人力車

素朴な疑問

将官は師団でもごく少数の貴人なのになぜ単独行動をしたのか?

明治32年9月1日の日記によると兵僕(当番兵。師団司令部への通勤や北方の部隊、病院の視察の際には乗馬の上官に付き添う)は夜は営舎に帰る、とあり日記全体を通読しても小倉域外への鉄道乗車や宿泊を伴う出張は鷗外単独の行動です。師団長など他の将官については不明。

また出張先からの出迎えについても記載がなく、自動車のない時代で人力車でおいで下さい、のようです。

直方の歴史と文化

文 榊 正 澄

文化財に関する問い合わせ:文化スポーツ推進課社会教育係(TEL 25-23326)

人の動き

■人口 56,468人(−172) ■世帯数 27,316世帯(+178)
[うち外国人624人]
男 26,699人(−33) 全て令和2年5月末現在
女 29,769人(−139) ()は前年同月との比較

<発行>直方市

〒822-8501 福岡県直方市殿町7番1号

URL…http://www.city.nogata.fukuoka.jp/

<発行日>毎月1日(月1回)

<編集>秘書広報課秘書広報係

TEL…(0949)25-2236 FAX…(0949)22-5107

E-MAIL…n-koho@city.nogata.fukuoka.jp

<印刷・制作>株式会社ワールドプリンティング



UD FONT

直方市Instagram



さあ、あなたもフォロー!

直方市公式LINE



直方市と友だちになろう!

直方市バーチャルミュージアム



直方の文化を隅々まで

携帯電話向け
情報提供サービス

SNSやwebサイトで様々な情報発信を行っています。ぜひ、ご覧ください。

アプリ「マチイロ」



市報をアプリで配信中!

情報メール「つながるおがた」



緊急情報、イベント情報など